

学校名	北海道函館西高等学校
-----	------------

学校関係者 学校評議員 5名

1 学校教育目標

- (1) 変化に対応し、新しい価値を見いだせる人を育む
(2) 地域を思い、未来を創造できる人を育む
(3) 自他を尊び、共生できる人を育む

2 スクール・ミッション

- (1) 生徒の興味・関心、進路希望等に応じて柔軟に教育課程を編成し、個々の進路実現に向けて必要な能力や態度を身に付けた生徒の育成
(2) 社会人としての基本的な資質を身に付け、地域の課題に対して主体的に考え、取り組むなど、自ら課題解決していく生徒の育成
(3) 探究的な学習やキャリア教育を推進し、持続可能な未来社会の創り手となる生徒の育成

3 年度の重点目標

- (1) 主体的、対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を進め、「確かな学力」を育成する。
(2) 持続可能な未来社会の創り手の育成に向け、探究的な学習、キャリア教育を推進する。
(3) 体験的学習や生徒会活動、部活動、ボランティア活動等を通して広く社会を知り、人間性や社会性、自己有用感を育む。

4 自己評価結果

評価基準

A：達成している B：おおむね達成 C：やや不十分である D：不十分である

5 学校関係者評価

(1) 自己評価の適切さ

A：適切な評価である B：ほぼ適切な評価である C：やや不適切な評価である D：不適切な評価である

(2) 改善に向けた取組の適切さ

A：十分な効果が期待できる B：ほぼ十分な効果が期待できる C：あまり効果が期待できない D：全く効果は期待できない

項目	重点事項	評価の観点 (各分掌の重点課題)	達成 状況	改善・充実の方策	(1)自己評価の適切さ	(2)改善に向けた取組の適切さ
Ⅰ 学習指導	(1)「授業」を大切にし、積極的に ICT の活用を図りながら、生徒個々の基礎的・基本的な知識及び技能の習得と、思考力、判断力、表現力等の育成、主体的に学習に取り組む態度の涵養を図る。	「確かな学力」の向上のため、シラバス等で授業の指導方針を明確にするとともに、ICT を効果的に活用し、生徒が自ら学ぶ学習環境と仕組を整えることができたか。	C	・校内研修の充実と教員相互の授業参観の実施により、I C T を効果的に活用した授業改善に努める。 ・生徒による授業評価を実施し、授業改善に努める。	A	B
	(2)「育成を目指す資質・能力」の育成に向け、新学習指導要領に則った授業改善を進めるとともに、教育課程の検証・改善を図ることができたか。	新学習指導要領に則った授業改善を進めるとともに、教育課程の検証・改善を図ることができたか。	B	今年度同様に取組を継続し、充実・発展させる。		
	(3)「指導と評価の一体化」を図り、学習評価の充実を進める。	生徒の次の学びにつながる評価方法について研修し、適切な評価の方法、評価の伝え方を検討することができたか。	B	今年度同様に取組を継続し、充実・発展させる。		
	(4)言語活動や他者との協働など、各教科において探究的な活動の充実を図る。	探究的な活動を支援するために、図書資料の整備・充実を図り、探究部と連携を深めることができたか。	D	校内研修の充実と教員相互の授業参観の実施により、授業改善に努める。		
	(5)家庭との連携を図り、端末等も有効に活用しながら生徒の学習習慣の確立を図る。	生徒が端末等を活用する授業や家庭学習を行うことにより、生徒の学習習慣の確立を図ることができたか。	C	スタディサプリの活用方法を各教科で再検討する。		
	学校関係者の意見 ・簡便な校内研修等の在り方を工夫して実施し、先生方も常にアップデートしてほしい。 ・先生方の牽引力が生徒の力を引き伸ばすという意識で取り組んでほしい。 ・自分達（生徒）が将来の道南を牽引していくという意識を先生方はもっと育ててほしい。 ・I C T 活用が得意な教員の先進的な取組を、「新しいことは分からない」と拒否するのではなく、「新しい取組を理解しようとする職場環境づくり」を継続してほしい。 ・学力が向上するようにスタディサプリの活用を工夫してほしい。 ・学力向上を目指すとする生徒が少ない原因を分析して、対応策を検討してほしい。 ・先生方も大変苦労されていると拝察するが、探究や I C T を切り口に授業改善をすすめてほしい。					
Ⅱ 生徒指導	(1)基本的生活習慣の確立と自己指導能力の育成に取り組む。	函館西高生として地域・家庭から求められる生徒像を明らかにし、それに見合った身だしなみや行動が自発的にできるよう指導することができたか。	B	今年度同様に取組を継続し、充実・発展させる。	A	B
	(2)有意義で充実した高校生活の実現を目指し、生徒の自主的活動を支援する。	達成感のある生徒会行事の実施のため、生徒全員が携わり、創意工夫して遂行できるよう支援することができたか。	A	今年度同様に取組を継続し、充実・発展させる。		
	(3)言語活動の充実を図り、家庭や地域等と連携して、望ましい人間関係の構築と「豊かな心」の育成を進める。	安心・安全な学校生活にするために、日々の観察に加え、外部からの情報をこまめに精査・発信し、注意喚起を促すことができたか。	A	今年度同様に取組を継続し、充実・発展させる。		
	(4)いじめや問題行動等の未然防止に向けた取組の充実を図るとともに、カウンセリングマインドをベースとした機を逃さない指導を進める。	いじめを絶対許さない心を養い、S N S の利用も含めた問題行動等に対し、未然に立ち止まって考えて行動できるよう、予防的指導を行うことができたか。	B	今年度同様に取組を継続し、充実・発展させる。		
	(5)不審者等への適切な対応の徹底を図るとともに、情報モラルやリテラシーの育成を図り、SNS 等の良好な活用を進める。		C	大きな SNS トラブルは発生しなかったが、今後も未然防止の指導とトラブルに対する初期対応を適切に粘り強く実施する。		
	学校関係者の意見 ・いじめの早期発見に努めていただきたい。 ・いじめ、問題行動、SNS トラブル対応など引き続き粘り強く対応してほしい。					
Ⅲ 進路指導	(1)生徒の自己理解をベースとしたキャリア形成を進め、自己実現に向けた主体的な進路設計や進路目標設定に早期から取り組ませる。	生徒・保護者・学校が一体となって進路支援を行うための、保護者の求めに応じたガイダンスの実践と啓蒙ができたか。	B	今年度同様に取組を継続し、充実・発展させる。	A	B
	(2)家庭や地域、産業界等と連携した体系的なキャリア教育を進め、望ましい勤労観や職業観を育む。		B	今年度同様に取組を継続し、充実・発展させる。		
	(3)年次・教科・分掌間の連携を深め、成果につながる組織的・計画的な進路指導を強化する。	総合型選抜・学校推薦型選抜に対応するための、探究活動との連動した、全校体制による、進路指導の実践ができたか。	C	生徒の求めや生徒一人ひとりの適性に応じた進路支援活動と、探究活動との連携・連動を位置づける。探究部と連携し、進路支援活動に関する校内研修を行う。		
	(4)最新情報の収集と効果的な活用・周知により、生徒・保護者の理解を高め、生徒個々の目標実現へ繋げる。	生徒・保護者・学校が一体となって進路支援を行うための、保護者の求めに応じたガイダンスの実践と啓蒙ができたか。	A	今年度同様に取組を継続し、充実・発展させる。		
	(5)講習・模試・ICT 学習支援等の活用等の改善、充実を進め、効果的な進路指導を推進する。	対面による講習と ICT 機器を活用した学習支援の、適切かつ効果的な配置と、その実践ができたか。	C	・対面による講習では、生徒が求め、必要とする支援を追求し、充実を図る。 ・ICT 活用では、主体的な学びとのつながりを計画に反映する。 ・模擬試験は、効果的な計画・実施を円滑に行うための前提となる申請手続き、会計などの事務処理関連の精査を行う。		
	学校関係者の意見 ・生徒が一人でも多く自信を持って卒業できる生徒が増えてほしい。					
Ⅳ 健康・安全指導	(1)自他の生命を尊重し、健全な心身を育む態度を養う。	・学校保健計画に即した健康と安全に対しての指導を適切に行うことができたか。 ・生徒の多様性に柔軟に対応した特別支援・教育相談に向けて、各関係部署との迅速かつ的確な連携に努めることができたか。	A	今年度同様に取組を継続し、充実・発展させる。	A	A
	(2)生涯にわたってスポーツに親しむ態度を育成する。		A	今年度同様に取組を継続し、充実・発展させる。		
	(3)防災教育の充実を進め、危機管理意識の向上と安心安全な学校生活を確立する。		A	今年度同様に取組を継続し、充実・発展させる。		
	(4)保健委員会等の委員会活動の自発的・積極的な取組を支援する。		A	今年度同様に取組を継続し、充実・発展させる。		
	(5)日常の清掃やボランティア活動を通し、学校や地域の美化や環境保全の意識を養う。		B	今年度同様に取組を継続し、充実・発展させる。		
	学校関係者の意見 ・新分掌の取組を期待する。 ・生徒の安心で安全な空間をつくるとともに、教職員も働きやすい空間をつくってほしい。					